

## 【第6回】都市計画マスタープラン等見直し検討部会

### 都市計画マスタープラン編

#### 【目次】

1 計画の見直しについて	……1
2 検討部会の議論の経過	……6
3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲(中間まとめ)	……8
4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)	……12
5 部門別の取組の方向性イメージ	……26
6 まとめ	……44

# 1 計画の見直しについて

## 2 検討部会の議論の経過

## 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲 (中間まとめ)

## 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)

## 5 部門別の取組の方向性イメージ

## 6 まとめ

## 都市計画マスタープランの概要

### ● 目的

- 札幌市の目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理し、都市づくりの総合性・一体性を確保
- 今後の協働の都市づくりを推進するために市民・企業・行政等が共有

### ● 目標年次

- 概ね20年後の将来を見据えた計画とすることを基本とするが、社会情勢の変化や関連計画の変更などを踏まえて随時見直していくもの

## 現計画(第2次札幌市都市計画マスタープラン)について H28.3策定

### ● 都市づくりの理念

**S・M・I・L・Es City Sapporo** (スマイルズ・シティ・サッポロ)  
～誰もが笑顔でいきいきとすごせるまちへ～

### ● 都市づくりの基本目標

#### 【都市づくり全体】

高次な都市機能や活発な経済活動により、都市の魅力と活力を創出し、道内をはじめ国内外とつながり北海道をリードする**世界都市**

超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集積することなどにより、円滑な移動や都市サービスを楽しむことができる**コンパクトな都市**

自然と調和したゆとりある郊外での暮らしや、利便性の高い都心・地下鉄駅周辺などでの暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された**札幌らしいライフスタイルが実現できる都市**

公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる**低炭素都市**

都市基盤が効率的に維持・保全され、都市活動が災害時にも継続できる**安全・安心な都市**

#### 【身近な地域】

**多様な協働**による地域の取組が連鎖する都市

### ● 総合的な取組の方向性

◆ 1 魅力があふれ世界を引きつける都心

● 2 多様な交流を支える地域交流拠点

■ 3 利便性が高く魅力ある複合型高度利用市街地の実現

■ 4 地域特性に応じた一般住宅地・郊外住宅地の居住環境の維持・向上

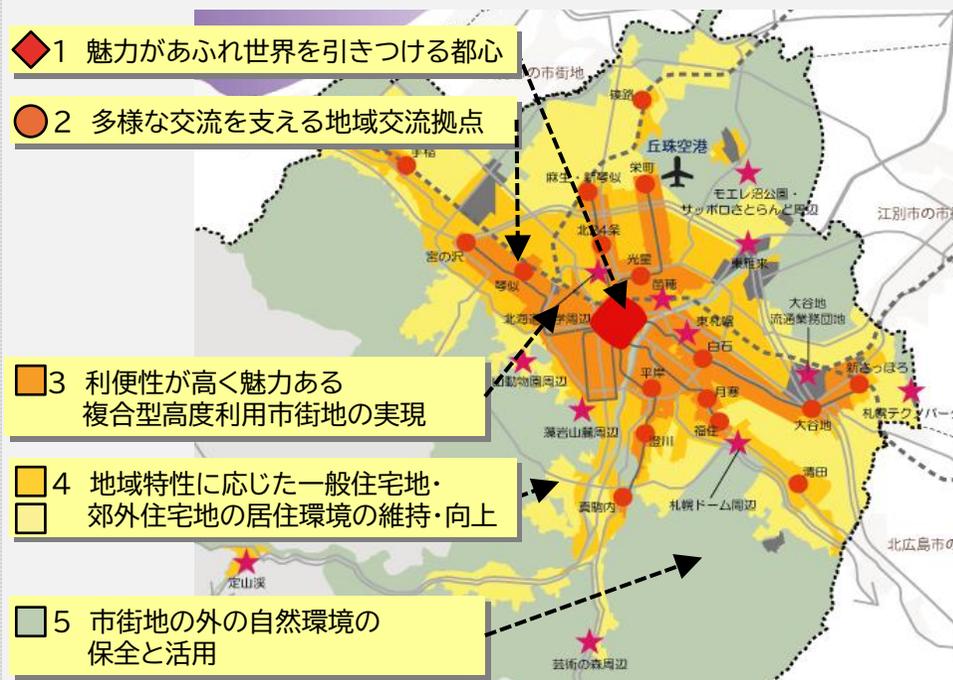
□ 5 市街地の外の自然環境の保全と活用

### ● 部門別の取組の方向性

土地利用	交通	エネルギー	みどり	各種都市施設
------	----	-------	-----	--------

### ● 取組を支える仕組み

都市づくりの取組における「市民参加」と「多様な協働」の仕組みの充実



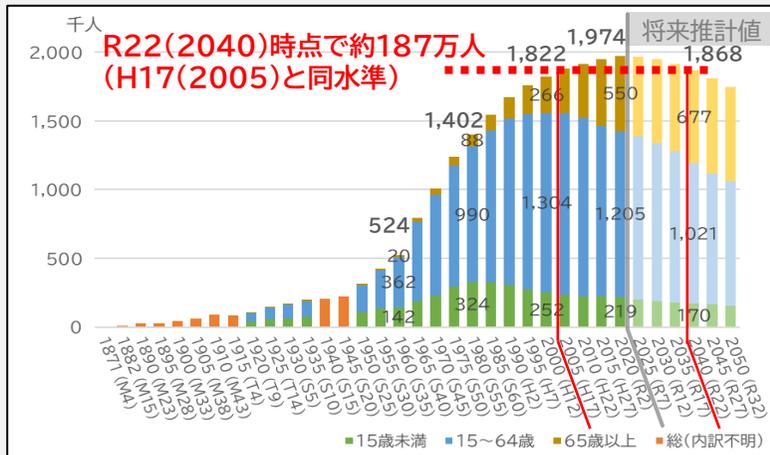
## 人口・土地利用動向・社会経済情勢等

### 人口の推移

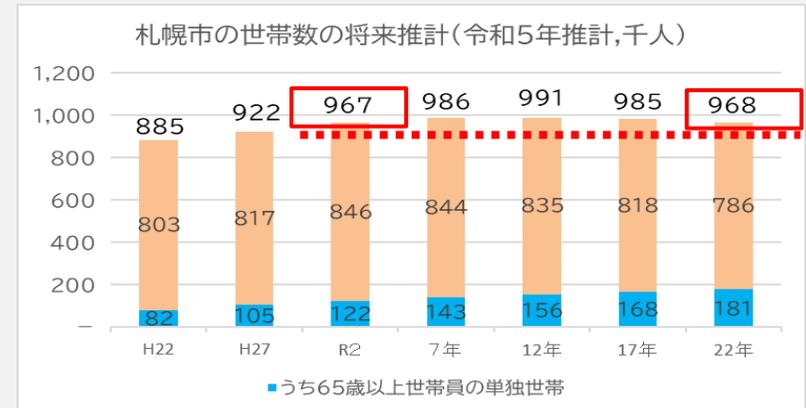
- 令和22年時点の**将来推計人口は約187万人と、令和2年から約10万人減少する見込み**
- 住宅市街地の区分毎に見ると、**複合型高度利用市街地は維持、郊外・一般は減少する見込み**
- 割合では、**複合型高度利用市街地が約42%で一番高く、郊外住宅地でも約33%が居住する推計**
- 世帯数は令和12年を目安に増加し、令和22年は令和2年と同水準**

#### ● 人口推移

※ R7以降は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口より



#### ● 札幌市の世帯数の将来推計



推計の起点となる世帯率は、総務省統計局「令和2年国勢調査」を使用して算出している。

#### ● 住宅市街地の区分別の人口

住宅市街地の区分	H22(国調)	R2(国調)	R22(推計)
市街化区域	1,890 千人 (75.7人/ha)	1,951 千人 (78.1人/ha)	1,853 千人 (74.2人/ha) 5%減

## 人口・土地利用動向・社会経済情勢等

### 住宅に関する動向

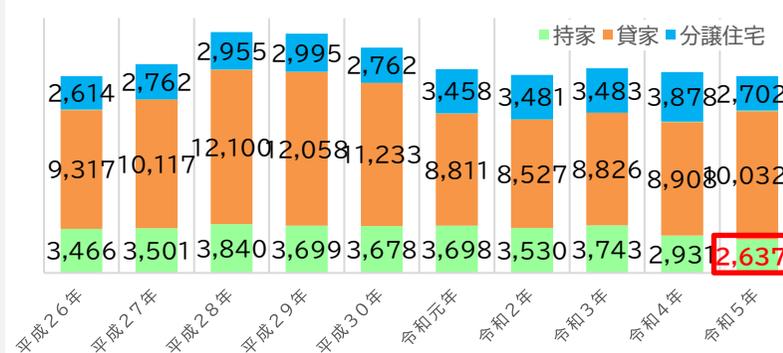
- ・戸建住宅は増加し続けており、近年も**全市的に住宅の新規立地**が見られる
- ・令和5年の持家の新規着工数は過去10年で最も低く、物価高騰等が建築動向に影響を与えていることが予想できる

#### ● 住宅市街地の区分別の住宅立地動向

区域	(棟数)	H22	H27	R2
市街化区域	戸建住宅	280,867 棟	296,831 棟	308,254 棟
	共同住宅	58,200 棟	59,981 棟	59,483 棟
	その他(併用等)	12,908 棟	12,188 棟	11,226 棟
郊外住宅地	戸建住宅	174,979 棟	185,780 棟	193,060 棟
	共同住宅	11,114 棟	11,266 棟	11,220 棟
	その他(併用等)	4,517 棟	4,413 棟	3,994 棟
一般住宅地	戸建住宅	64,148 棟	68,019 棟	71,716 棟
	共同住宅	17,230 棟	17,036 棟	16,729 棟
	その他(併用等)	3,499 棟	3,301 棟	3,107 棟
複合型高度利用市街地	戸建住宅	41,180 棟	42,465 棟	42,890 棟
	共同住宅	29,741 棟	30,559 棟	31,413 棟
	その他(併用等)	4,841 棟	4,420 棟	4,071 棟

<資料> 令和6年地価調査概要

#### ● 札幌市の新設住宅着工戸数

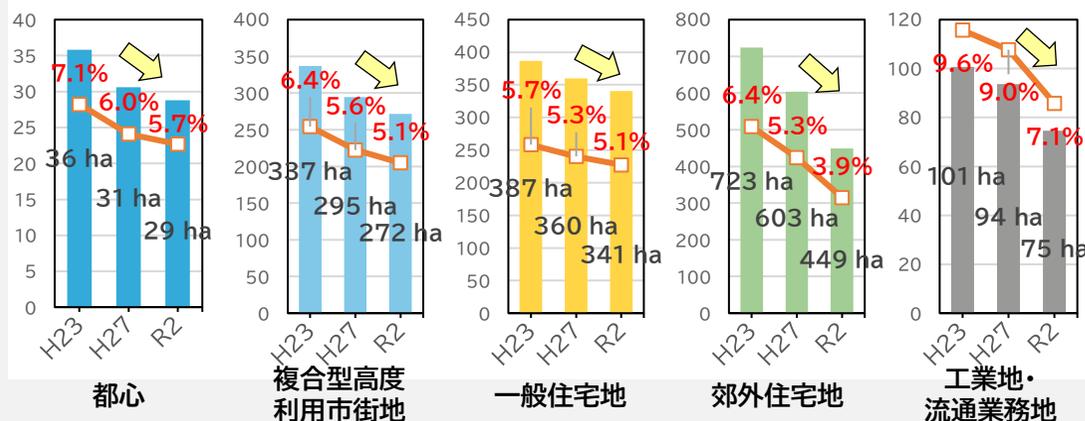


<資料> 建築着工統計調査

### 土地利用動向・社会経済状況

- ・低未利用地は**全市的に減少傾向**であり、特に**郊外住宅地における減少量・減少率が大きく、土地の活用が進んでいる状況**
- ・札幌市の製造品出荷額等は増加傾向であり、令和4年は約5932億円
- 今後も製造品出荷額等の増加が続く場合新たな設備投資も想定されるため、工業系用地の保全や更なる確保について検討が必要

#### ● 市街地区分ごとの低未利用地の推移



#### ● 札幌市の製造出荷額等の推移



<資料> 経済構造実態調査、経済センサス、工業統計調査

## 現計画の見直し

平成28年

都市計画マスタープラン 立地適正化計画

【都市づくりの理念】

S・M・I・L・Es City Sapporo  
(スマイルズ・シティ・サッポロ)  
～誰もが笑顔でいきいきとすごせるまちへ～

【都市づくりの基本目標】

世界都市	低炭素都市
コンパクトな都市	安全・安心な都市
札幌らしいライフスタイル が実現できる都市	多様な協働

都市再開発方針

【再開発の基本目標】

1. 魅力的で活力ある都心の創造
2. 個性あふれ生活を豊かにする拠点の形成
3. 生活の基盤となる持続可能なまちづくりの推進



### 社会経済情勢等の変化

人口減少局面の到来、新型コロナウイルスの感染拡大  
デジタル技術の急速な進歩、都市のリニューアル、国の動向など

### 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの策定

様々な社会情勢等の変化を踏まえ、持続可能な都市の実現のため、3計画を見直し

令和4～5年

令和6～7年

次期 都市計画マスタープラン 立地適正化計画 都市再開発方針 の策定

論点・ポイント

将来を見据えた都市づくりの理念、基本目標、市街地区ごとの取組の方向性の検討など	防災指針の作成や、誘導区域及び誘導施設の検証など	主体・手法などの多様化を踏まえた新たな基本目標や取組の方向性の検討など
---	--------------------------	-------------------------------------

- 1 計画の見直しについて
- 2 検討部会の議論の経過**
- 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲  
(中間まとめ)
- 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)
- 5 部門別の取組の方向性イメージ
- 6 まとめ

## 検討部会の議論の経過

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
都計審		●		●		●		●			● 中間まとめ報告	
検討部会		第1回 論点整理		第2回 個別議論	第3回 個別議論		第4回 個別議論		第5回 個別議論	第6回 中間まとめ		
都市マス		●		●			●			●		
立地適正化計画		●			●				●	●		
再開発方針		●			●				●	●		

### 議 題

#### 【札幌市を取り巻く現況、動向、社会情勢】

- 人口構造(人口減少、少子高齢化)
- 公共交通ネットワーク
- 都市のリニューアルなど

#### 【改定のポイント】

- 基本目標等
- 市街地区分毎の方向性
- 部門別の方向性

#### 【基本目標等】

- 見直しの視点
- 基本目標イメージ

### 議 題

#### 【市街地の範囲】

- 人口規模に応じた市街地の範囲の変更はしないことを基本

#### 【市街地区分毎の方向性】

- 住宅市街地
- 地域交流拠点
- これまでの取組・今後の動き
- 将来像イメージ
- 取組の方向性イメージ

### 議 題

#### 【市街地区分毎の方向性】

- 都心
- 高次機能交流拠点
- 工業地・流通業務地
- 市街化調整区域
- これまでの取組・今後の動き
- 将来像イメージ
- 取組の方向性イメージ

### 議 題

#### 【中間とりまとめ】

- これまでの市街地区分ごとの議論の中間まとめ

#### 【部門別の方向性】

- 交通
- エネルギー
- みどり
- 各種都市施設
- 景観
- これまでの取組・今後の動き
- 将来像イメージ
- 取組の方向性イメージ

- 1 計画の見直しについて
- 2 検討部会の議論の経過
- 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲  
(中間まとめ)**
- 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)
- 5 部門別の取組の方向性イメージ
- 6 まとめ

## 都市計画マスタープランの見直しの視点

第1回の内容を再掲

### 第2次札幌市都市計画マスタープラン

基本目標	世界都市	コンパクトな都市	札幌らしいライフスタイルが実現できる都市	低炭素都市	安全・安心な都市
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心の機能集積や基盤整備</li> <li>・工業地保全など産業の強化</li> <li>・高次機能交流拠点の機能強化など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地適正化計画の策定</li> <li>・地域交流拠点の機能強化</li> <li>・歩行空間整備等の移動円滑化 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の特徴に応じた土地利用</li> <li>・にぎわい・交流空間の整備</li> <li>・住宅地の魅力向上 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーセンターの整備</li> <li>・建物の省エネルギー化促進</li> <li>・都心のみどりづくりの推進 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の複合化による地域コミュニティ拠点形成</li> <li>・自立分散型エネルギーネットワーク等による強靱化 など</li> </ul>

### 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

重要概念 **ユニバーサル** **ウェルネス** **スマート**

基本目標18 コンパクトで人にやさしい快適なまち

基本目標19 世界をひきつける魅力と活力あふれるまち

基本目標20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

### 現況・動向・社会情勢

<人口等> コンパクトな都市づくり／持続可能な都市づくり／持続的な地域コミュニティ

<都市のリニューアル> 高次な都市機能集積／魅力的な空間・良好な景観の形成

<環境・エネルギー> 脱炭素化の推進／GXの推進

<健康・ライフスタイル> ウォーカブルな都市づくり／歩いて暮らせる都市づくり／多様なライフスタイルの実現

<安全・安心> 強靱な都市づくり／都市基盤を効率的に維持・保全し利活用する都市づくり

<新たな手法・視点> 市街地整備2.0／デジタル技術の進展

## 見直しの視点

### 地域動向を捉えた都市の魅力や活力の向上

広域交通ネットワーク整備や土地利用更新の機を捉え、札幌らしい魅力と活力を生む都市づくりを進展

⇒都市のリニューアル、高次な都市機能、景観

### コンパクトプラスネットワークの深化

人口減少局面を迎え、生産年齢人口減少・人手不足等が予測される中、更に持続可能な都市づくりを進展

⇒コンパクトプラスネットワーク、コミュニティ

### 脱炭素化・強靱化の推進

GX関連産業や金融機能の集積等の動きを捉え、先駆的な脱炭素化の取組を推進

⇒脱炭素化、GX、強靱、みどり

### ひと中心のまちづくりの推進

人生100年時代や多様化する価値観等を受け、誰もが居心地のよく快適な都市づくりを進展

⇒ウォーカブル、子育て、札幌らしいライフスタイル

### 多様な取組によるまちづくりの推進

地域ごとのまちづくりの動向を捉え、既存資源や最先端技術等を活用しながら、様々なフェーズで取組を進展

⇒デジタル技術、市街地整備2.0

## 都市計画マスタープランの見直しの視点とポイント

### 見直しの視点

#### 持続可能な都市づくりの推進

人口減少局面における持続可能な都市づくりを進めるため、コンパクトプラ  
スネットワークを推進

#### リニューアル時期を捉えた都市づくりの推進

活発な民間開発や広域交通ネットワークの強化等の機会を捉えた魅力や活  
力の向上を図る

#### ひと中心の都市づくりの推進

都心・地域交流拠点でのにぎわい・交流の促進やイノベーションの創出、住  
宅地でのコミュニティの維持を図る

#### 脱炭素化・強靱化に向けた都市づくりの推進

脱炭素社会の実現に向けた国家戦略特区の指定等を踏まえ取組を進めると  
ともに、都市活動が災害時にも継続できる防災・減災の取組を推進

#### 多様な手法を活用した都市づくりの推進

都市が成熟し求められるニーズ等が多様化・複雑化する状況を踏まえ、地域  
課題の解決や快適な暮らしの実現を図る

### 次期都市マスに追加する主なポイント

- ▶ 立地適正化計画による**居住機能・都市機能の誘導**
- ▶ **土地利用施策と交通施策との連携**
- ▶ **多様なライフスタイルの実現に向けた土地利用転換の適切な誘導**

- ▶ 北海道新幹線の札幌延伸を見据えた**都市のリニューアルの推進**
- ▶ 都市マスにおける**景観形成の取組の位置づけを強化**
- ▶ **みどりを活かした都市の魅力や機能の向上**
- ▶ **札幌の発展を支える産業立地への対応**

- ▶ **にぎわい・交流の促進とイノベーションの創出**
- ▶ **子ども、高齢者をはじめ誰もが快適に暮らせる都市空間の形成**
- ▶ **居心地が良く歩きたくなる空間の形成**

- ▶ **脱炭素社会の実現に向けた取組**
- ▶ **GX関連産業の集積に向けた取組**
- ▶ **安全・安心な都市を目指したハード・ソフト両面からの防災・減災**

- ▶ **デジタル技術を活用した都市づくりや快適な暮らしの実現**
- ▶ **エリアマネジメントの推進**

## 見直しの視点やポイントに関わる検討部会意見(抜粋)

- ・計画期間(2040年代)以降も更に進む人口減少を見据え、2040年代以降を視野に入れた持続可能な都市の実現に向けた取組の実施
- ・高齢者から子どもまで誰もが暮らしやすい都市の実現
- ・住んで誇りに思えるようなバリューの創出
- ・パーソントリップ調査で得られるデータを踏まえた土地利用施策と交通施策との連携

## 市街地の範囲

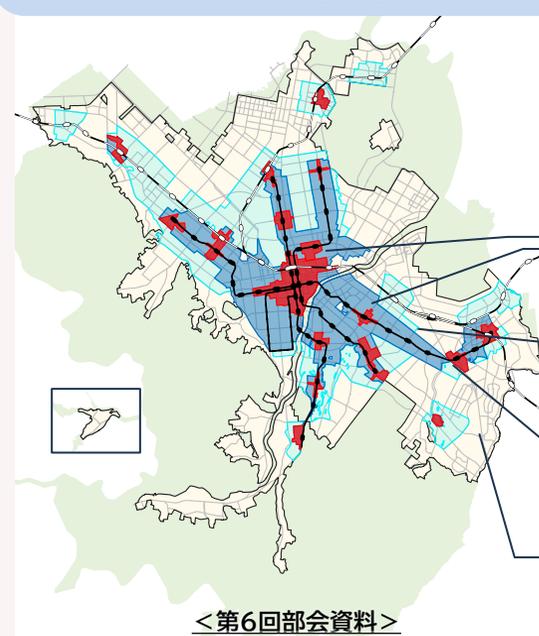
- 概ね20年後の将来人口推計は187万人であり、郊外部においても一定の居住がみられる等の人口動向や土地利用動向を踏まえ、これまで築いてきたコンパクトな都市空間を維持した**持続可能な都市の形成が必要**
- 人口減少社会における都市の発展に向けて、産業や観光、文化芸術、スポーツ等の様々な機能の集積等により、**魅力や活力あふれる都市の形成が必要**
- 多様な住まい方を実現できることは、本市の大きな特徴の一つであり、引き続き誰もが**多様なライフスタイルを実現できる都市の形成が必要**

### 人口規模に応じた市街地の範囲の変更はしないことを基本(今後20年間)

#### 次期都市マスにおける市街地の範囲イメージ



#### 次期立適に示す機能誘導のイメージ



#### ■ 将来の市街地の範囲についての考え方

- 2040年代の郊外住宅地においては、人口密度の減少に伴う課題等が顕在化する地域も想定
- 今後、全市的な人口減少対策、地域特性を踏まえた生活・コミュニティに関する施策等を図っても課題解決が困難な場合は、適正な市街地のあり方について検討が必要

都市機能誘導区域

集合型居住誘導区域

新たに設定する  
居住誘導区域

地域に応じた課題解決に  
取り組むエリア

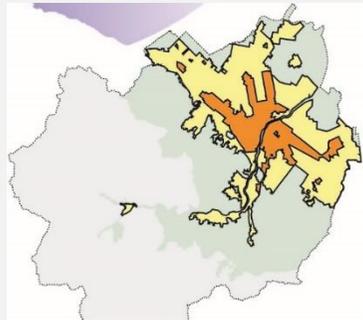
市街地の範囲  
についての考え方

次期都市マスで示す市街地で、内部充実型の持続可能な都市の形成に向けた居住誘導や都市機能の誘導を進め、**魅力と活力あふれる都市づくり**を進める

- 1 計画の見直しについて
- 2 検討部会の議論の経過
- 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲  
(中間まとめ)
- 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)**
- 5 部門別の取組の方向性イメージ
- 6 まとめ

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～住宅市街地～

### ■「2次マス」の記載内容



■ 利便性が高く魅力ある  
**複合型高度利用市街地**の  
 実現

■ 地域特性に応じた  
■ **一般住宅地・郊外住宅地**の  
 居住環境の維持・向上

これまでの取組と現状・今後の動き	
複合型 高度利用市街地	<p><b>【これまでの取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>用途地域見直しによる居住地としての魅力向上</li> <li>集合型の居住の誘導 など</li> </ul> <p><b>【現状・今後の動き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓人口の集積、人口密度の偏在が改善傾向</li> <li>✓居住環境の質の向上 など</li> </ul>
一般 住宅地	<p><b>【これまでの取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちの価値を高めるルールづくりの推進 など</li> </ul> <p><b>【現状・今後の動き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓集合住宅や戸建住宅が調和して立地</li> <li>✓JR沿線などの交通利便性を有する など</li> </ul>
郊外 住宅地	<p><b>【これまでの取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>用途地域見直しによる地域コミュニティの維持・形成</li> <li>面的な公共交通ネットワークの維持に向けた取組</li> </ul> <p><b>【現状・今後の動き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓自然と近接したゆとりある住宅地の形成</li> <li>✓人口減少に伴う生活利便施設の減少が予想</li> <li>✓路線バスの減便に伴う交通利便性の低下 など</li> </ul>

### 今後の重要なポイント

- **集合型の居住機能を集積**
- 高密度な居住を支える都市空間の質の向上(景観、オープンスペース、みどり等)
- 脱炭素化の推進
- 防災都市づくり

- **多様な居住が調和した市街地**
- 人口密度に応じた生活利便性の確保
- 生活に必要な移動手段の確保
- 良質な住宅ストックの形成
- 身近なみどりの活用、防災都市づくり

- **ゆとりある居住環境**
- 人口密度に応じた生活利便性の確保
- 生活に必要な移動手段の確保
- 良質な住宅ストックの形成
- 身近なみどりの活用、防災都市づくり

### 検討部会のご意見

- 人口減少を見据えて郊外住宅地の具体性のあるビジョンが必要。
- 住宅市街地の将来像は「形成」以外の方向性を見据えてもいいのではないかと。
- 不動産関連業者が空き家の情報をつかめるといい。
- 世帯構成人数の動向変化に伴って住宅需要が変わっている可能性があり、今後のストック活用の方向性に関係してくるのではないかと。
- 地域公共交通計画(令和6年策定)と連携を図ることが必要
- 交通利便性の確保に加えて生活利便機能の確保も必要。

### 市民のご意見

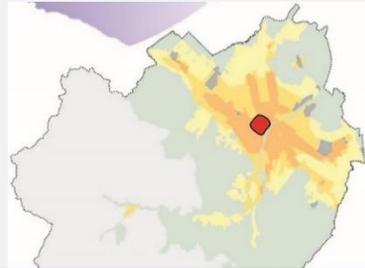
- 交通に対するご意見(バス減便に関する懸念、地下鉄の延伸、多様な移動手段の充実、駐車・駐輪の充実等)
- 歩きやすさやバリアフリー化等に関するご意見(歩きやすい歩行空間等)
- 福祉、子育ての充実に関するご意見(高齢者が過ごしやすいまち、子育てのしやすいまち、安心して子育てができる環境等)
- 利便施設に関するご意見(拠点に加えて住宅地への利便施設の立地等)
- 生活環境に関するご意見(公園の防災や雪捨てなどへの利用、空き家の懸念、高度人材を受け入れる住宅整備等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～住宅市街地～

区分	将来像(案)	将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)
複合型 高度利用市街地	<p><b>質の高い空間が広がる快適なまち</b></p> <p>人口減少下においても高い居住密度に支えられた生活利便機能が集積し、良好な景観やオープンスペースの創出、歩きたくなる空間の整備、みどりの確保などによる質の高い都市空間が形成されています</p>	<p><b>複合型</b> ○高密度で質の高い都市空間の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集合型の居住機能の集積による多様な都市機能の集積</li> <li>良好な景観形成</li> <li>官民連携によるオープンスペースとみどりの創出</li> </ul> <p><b>複合型 一般 郊外</b> ○立地適正化計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な居住機能及び都市機能の誘導</li> <li>立地適正化計画と連携した都市計画制度の戦略的な運用</li> </ul>
一般 住宅地	<p><b>多様な機能が調和した住みやすいまち</b></p> <p>戸建住宅や集合住宅などの多様な居住機能や生活利便機能など、地域のニーズに応じた、調和の保たれた居住環境が形成されています</p>	<p><b>複合型 一般 郊外</b> ○居住地としての魅力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な居心地が良く歩きたくなる空間の形成</li> <li>公園の再整備などによる居心地の良い滞留空間の形成</li> <li>地域の特性に応じた土地利用のルールづくり等のまちづくりの取組への支援</li> </ul> <p><b>複合型 一般 郊外</b> ○土地及び既存ストックの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用転換を捉えた誘導、再編</li> <li>低未利用地等の土地の有効活用</li> <li>脱炭素化等に対応した良質な住宅ストックの形成</li> <li>住宅ストックの活用・流通の促進</li> </ul>
郊外 住宅地	<p><b>ゆとりある暮らしを実現するまち</b></p> <p>自然と近接し、ゆとりある空間を活かした暮らしが実現できる住宅地が維持されています</p>	<p><b>一般 郊外</b> ○居住環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面的な公共交通ネットワークの維持</li> <li>社会情勢の変化を踏まえた都市計画制度の柔軟な運用</li> <li>地域の変化に応じた課題解決に向けた取組</li> </ul>

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～都心～

### ■「2次マス」の記載内容



魅力があふれ世界を引きつける**都心**

#### 【基本方針】

- 国内外から活力・投資を呼び込む高次な都市機能の集積や都心の象徴的な公共空間の効果的な活用
- 災害に強いエネルギーネットワークの形成などを進めます

### これまでの取組と現状・今後の動き

#### 【これまでの取組・現状】

- 「第2次都心まちづくり計画」に基づく計画的・戦略的なまちづくり
- 都市機能の集積及び高度利用
- 自立分散型エネルギーネットワークの形成
- 都心アクセス強化、都心のみどりづくり
- エリアマネジメント・空間活用 など

#### 【今後の動き】

- ✓「(仮称)第3次都心まちづくり計画」を策定予定(令和7年度末)
- ✓高次な都市機能集積や場の創出、交流の仕組みづくりなど、イノベーションがうまれる都心
- ✓脱炭素化を先導
- ✓広域交通ネットワーク、新たな交通需要への対応
- ✓居心地が良く歩きたくなる都心の形成

### 今後の重要なポイント

- 多様なひと・もの・ことを受け入れ交流を促進し、イノベーションがうまれる都心を形成
- CO2排出削減目標「実質排出量ゼロ」に向けた脱炭素化を先導する取組の推進
- 災害リスクを踏まえた強靱な都心の形成
- 北海道新幹線札幌延伸をはじめとした広域交通ネットワークの強化と新たな交通需要への対応
- 魅力的なストリートの形成による回遊性の向上

### 検討部会のご意見

- 公共貢献に「グリーンインフラ」を取り入れてはどうか。オープンスペースと社会インフラを一体に考えた水害対応が必要。
- 歩きたくなる空間の整備に、「面的な整備」という要素を入れてはどうか。
- ウォーカブルの推進を目指すのであれば、道路空間の再配分や都心への公共交通の利用の促進等について検討を深められないか。
- ウォーカブルにはバリアフリーの観点が必要
- 容積率以外のインセンティブを検討するべきではないか。
- 交通結節点では、バス・地下鉄の乗り継ぎだけでなく、自転車や新しいモビリティを含めた乗継拠点をどのように形成していけるかが課題
- 北海道新幹線開業後の札幌駅を中心とした交通計画について、都市マスと総合交通計画との連携が重要

### 市民の主なご意見

- 都心の開発に関するご意見(札幌らしい景観を残してほしい、商業施設の増加を希望、市民向けの施設も充実してほしい、高さ・色のルールがあると良い、成長の一方で充実させることも必要、居住は拠点にバランスよくした方がいい、開発に関する期待と懸念等)
- みどりのに関するご意見(中心部のみどりを増やしてほしい等)
- 空間形成、歩きやすさに関するご意見(北3条広場はいいと思う、歩いて楽しい空間の充実、市民が憩える空間整備の継続希望、ベビーカーなどの利用が不便、人が集まる四季のイベントの実施等)
- 交通に関するご意見(都心から地方への交通利便性の向上、交通など新技術の導入、地下歩道の拡充、新幹線の期待と懸念等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～都心～

### 将来像(案)

### 札幌・北海道の魅力と活力を 先導・発信する都心

- 国内外からひと・もの・ことを呼び込み、札幌はもとより北海道の経済を支え、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。
- 札幌の資源や資産を生かして、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる空間が形成されています。
- エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靭性を兼ね備えた都心が形成されています。
- 公民連携型のまちづくり推進体制を構築し、都心の魅力や価値の創出に挑戦できるまちづくりが進められています。

### 将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)

#### ○ 高次な都市機能の集積・交流機会の創出

- ・民間開発と連携した都市機能集積やまちづくりの推進
- ・交流を促進しイノベーションを創出する仕掛け
- ・GX産業の集積を見据えた都心の金融機能等の強化
- ・エリアの特徴に応じた居住機能の適切な対応方針の検討

#### ○ 先進的な脱炭素化の取組の推進

- ・ICTの活用等による効率的なエネルギー供給システムの構築
- ・再生可能エネルギーなど地域資源に由来する水素エネルギーの活用

#### ○ みどりが感じられ居心地が良く歩きたくなる空間の形成

- ・官民連携による緑地の創出などによるみどり豊かな都心の形成
- ・眺望、夜間景観、雪・冬季の景観等の札幌を特徴づける良好な景観形成に関する取組の強化
- ・交通機能と滞留機能のバランスや面的な機能分担、都心を目的地としない通過交通の適切な誘導
- ・北海道新幹線札幌延伸を見据えた将来の交通環境変化への対応
- ・地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの形成
- ・道路などの公共的空間の整備・活用等による滞留・交流空間の創出
- ・駅や公園などの公共施設のバリアフリー化

#### ○ 強靭な都心の形成

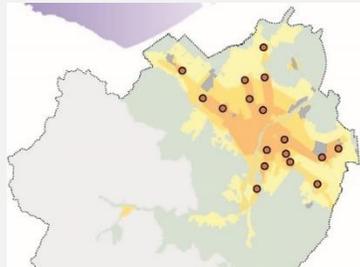
- ・都心における災害時の一時滞在機能の誘導
- ・建物の建替えと連動した災害時の電力・熱の供給機能確保

#### ○ 実効性を高める公民連携型のまちづくり推進

- ・公共的空間の柔軟な利活用を見据えた社会実験等の実施・受け入れ
- ・リノベーションの活用
- ・エリアマネジメントの推進

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～地域交流拠点～

### ■「2次マス」の記載内容



● 多様な交流を支える  
**地域交流拠点**

#### 【基本方針】

- 公共機能や多様な都市機能の集積を図るとともに、これらの都市機能を身近に利用することができるよう、居住機能の集積を促進します。
- にぎわい・交流が生まれる場の創出します。

### これまでの取組と現状・今後の動き

#### 【これまでの取組】

- 公共用地の活用や公共事業の実施等を通して、都市機能の集積や魅力の向上に向けた取組を推進
- 土地利用計画制度の運用(用地域等の全市見直し、地域性や地域特有の課題等を踏まえた誘導等)
- 移動性の向上、移動経路の円滑化
- 空間活用による賑わい創出 など

#### 【現状・今後の動き】

- ✓ 各拠点の地域特性に応じたまちづくりが進捗
- ✓ 人口減少局面に入り、後背圏の生活を支える地域交流拠点の役割はより一層重要
- ✓ 価値観やニーズ、働き方の多様化など、各拠点に求められる機能や空間についても多様化、複雑化
- ✓ 地域の特徴や機会を活かして戦略的な推進が重要

### 今後の重要なポイント

- 多様な都市機能誘導
- 居心地が良く歩きたくなる空間を形成し、拠点の魅力や回遊性の向上
- 豊かなオープンスペースの形成
- 建築物の脱炭素化や地域熱供給の拡充など環境へ配慮した取組の推進
- 建物のリノベーションや空地の活用等
- 拠点毎の特徴や状況を踏まえたまちづくり
- 交通結節機能強化やバリアフリー化
- 高次機能交流拠点との連携

### 検討部会のご意見

- 地域交流拠点毎に課題や強みがある中で、どのような考えで拠点の強化を考えていくのかメッセージが必要ではないか。
- 17拠点について個別に分析して、どういう意味や観点で、どのような開発を推進していくか、などについて具体化が必要ではないか
- 立地適正化計画の内容も踏まえ、医療や商業などの日常生活に関係する拠点機能も重要ではないか
- 地域交流拠点毎の観点として災害についても検討いただきたい。

### 市民の主なご意見

- 地域交流拠点の機能集積に関するご意見(駅周辺は便利で利用しやすい、高齢になったら駅周辺で生活したい、駅周辺は色々な機能が集積していると良い、医療・福祉・商業の充実、一部に集めすぎるのも不便等)
- 歩きやすさやバリアフリー化、乗換環境・待合環境の向上等に関するご意見(歩きやすい歩行空間、エレベーターやエスカレーターの充実等)
- 子育てに関するご意見(安心して子育てができる環境を希望、子どもの遊び場が駅周辺にあるのはいい等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～地域交流拠点～

将来像(案)

### 豊かな生活環境を支える 地域交流拠点

- 区役所などの公共機能や、商業・業務・医療・福祉などの多様な都市機能が集積しています。
- 拠点内の回遊性を向上し、居心地が良く歩きたくなる空間を形成することで、にぎわいや交流が生まれる場が創出され、居住者だけではなく多くの人に利用されています。
- 多様な都市機能を受け入れる都市空間の形成のため、良好な景観やオープンスペースの形成、環境配慮の取組が進展しています。
- 多様な都市機能を身近に利用することができるよう、居住機能の集積が進められています。

将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)

### ○ 土地利用計画制度を活用した都市機能の強化

- ・緩和型土地利用計画制度による高度利用の推進
- ・地域の利便の増進に寄与する施設の集積
- ・働きやすく子育てしやすい都市機能の充実

### ○ 交通結節機能の強化

- ・交通機能の再編や乗継利便性、待合機能の強化などによる後背圏へのアクセス性の向上
- ・旅客施設のバリアフリー化等による移動の円滑化

### ○ ひとが集まり居心地が良く歩きたくなる空間の形成

- ・道路や広場、公園、緑地などの公共的空間の活用
- ・沿道建築物の低層部のにぎわい形成 ・良好な景観形成
- ・官民連携による魅力あるオープンスペースの形成

### ○ 拠点の脱炭素化、強靱化

- ・建築物の脱炭素化
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・地域熱供給の拡充
- ・拠点における災害時の一時滞在機能の誘導

### ○ 地域の特徴を捉えた多様な手法での都市づくりの推進

- ・公共施設の更新等を捉えたまちづくりの推進
- ・リノベーションによる既存ストックの活用
- ・エリアマネジメントの推進
- ・高次機能交流拠点との連携

## 地域交流拠点の取組を進めるうえで考慮する観点

・取組の方向性を踏まえ、取組を進める上で考慮する観点を抽出

### 地域交流拠点共通の取組の方向性

○ 土地利用計画制度を活用した都市機能の強化

○ 交通結節機能の強化

○ ひとが集まり居心地が良く歩きたくなる空間の形成

○ 拠点の脱炭素化、強靱化

○ 地域の特徴を捉えた多様な手法での都市づくりの推進

### 取組を進める上で考慮する観点

①公共施設の機能更新を捉えたまちづくりを推進

・区役所や公営住宅等の公共施設の建替更新などとまちづくり活動の一体的な取組の働きかけを検討

②交通結節機能の向上

・交通広場の整備や待合機能強化、バリアフリー化、バスターミナルの機能更新などを検討

③後背圏を支える拠点にふさわしい生活利便機能の集積

・後背圏の豊かな暮らしを支える生活利便機能の集積などの取組を検討

④居心地が良く歩きたくなる空間の形成や活用の推進

・低層部のにぎわいの連続や、道路や広場などの都市基盤等の空間活用などの取組を検討

⑤脱炭素化・強靱化の推進

・建物の脱炭素化、地域熱供給の拡充などの取組を検討するとともに、**都市の防災力を高める取組を検討**

⑥エリアの価値を高める取組の推進

・エリアマネジメントや地域のルール作りにより拠点の価値向上の取組を検討

⑦周辺との連携などによる魅力の向上

・高次機能交流拠点との連携など、地域の特徴を活かした取組を検討

地域の特徴を活かして戦略的に取組を進めるため、上記の観点などを踏まえ拠点ごとの取組の方向性を検討

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～高次機能交流拠点～

### ■「2次マス」の記載内容



#### 高次機能交流拠点

#### 【基本方針】

- ・産業や観光、文化芸術、スポーツなど、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能の集積を目指します。



これまでの取組と現状・今後の動き	
位置付け(15箇所)	
新たに位置付ける拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●丘珠空港周辺</li> <li>●スノーリゾートエリア(サッポロテイネなど6か所)</li> <li>●中島公園周辺</li> </ul>
位置付けを変更する拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●円山動物園・大倉山周辺 →大倉山周辺を追加</li> <li>●札幌ドーム周辺</li> <li>●北海道大学周辺</li> <li>●定山溪</li> </ul>
引き続き位置付ける拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●藻岩山麓周辺</li> <li>●苗穂</li> <li>●東雁来</li> <li>●モエレ沼公園・さとらんど周辺</li> <li>●大谷地流通業務団地</li> <li>●東札幌</li> <li>●札幌テクノパーク</li> <li>●札幌芸術の森周辺</li> </ul>
	<p>①都市機能の更なる高度化や集積</p> <p>②情報発信・プロモーションの強化、既存ストックの利活用</p>

今後の重要なポイント
●都市機能の高度化や集積に向けた土地利用の推進
●官民連携による都市機能の強化と効率化の推進
●高次機能交流拠点へのアクセス性の向上
●周辺エリアが持つ機能を生かした一体的な取組の実施
●都心や地域交流拠点などと高次機能交流拠点の機能連携



### 検討部会のご意見

- ・高次機能交流拠点を含め、拠点同士をどのように関係づけるかが重要。
- ・丘珠空港の展望を踏まえながら都市マスの記載を検討すべき
- ・北海道大学について、産官学連携以外でも新幹線駅やMICEなどを踏まえてもう少し書いてもいいのではないかと。
- ・高次機能交流拠点への交通アクセスは必要となるので、オーバーツーリズム等の観点も踏まえ、日常的な利用者の生活との整合が重要
- ・札幌ドームの周辺の取組と市街化調整区域の方針が整合し、それを実現できるように都市マスに記載しておく必要がある。

### 市民の主なご意見

- ・丘珠空港、札幌ドーム、中島公園、スノーリゾートなどの各拠点に関するご意見(アクセス性の向上、情報発信が重要、利便機能を充実させて利用者増を図って欲しい、札幌ドームをもっと活用すべき等)
- ・観光に関するご意見(オーバーツーリズムとのバランスが大事、おすすめできる観光地はないので、もっと魅力が増えるといい等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～高次機能交流拠点～

### 将来像(案)

### 産業や観光など札幌市の魅力 と活力を高める 高次機能交流拠点

- 国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのひと・もの・ことを呼び込んでいます。

### 将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)

#### ○ 都市機能の更なる高度化や集積に向けた土地利用計画制度の運用

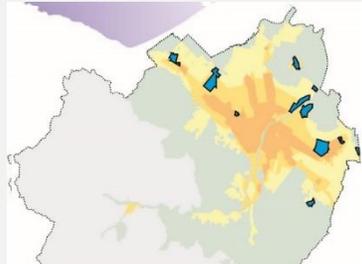
- ・高次機能交流拠点の特徴を踏まえた機能強化、土地利用の推進
- ・自然環境の保全を前提とした土地利用の限定的な許容による市街化調整区域にある高次機能交流拠点の機能や魅力の向上
- ・社会情勢やニーズに合わせた民間活力を活かした機能の高度化の検討

#### ○ 周辺との連携等による魅力や機能の向上の推進

- ・周辺の景観やみどり等を活かした魅力の向上
- ・拠点間の連携による魅力の向上
- ・空き地や空き店舗等の活用によるにぎわいの創出や回遊性の向上
- ・アクセス性の向上

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～工業地・流通業務地～

### ■「2次マス」の記載内容



工業地・流通業務地

#### 【基本方針】

- 道路基盤などに対応した集約的な土地利用により、業務の利便の確保と周辺の市街地環境との調和
- 工業地・流通業務地における土地利用の再編・高度化を支える
- 都市構造の秩序の維持や周辺の市街地環境への配慮を前提とした土地利用転換の適切な誘導

### これまでの取組と現状・今後の動き

#### 【これまでの取組・現状】

- 新川地区工業団地(平成9年分譲開始)の造成を最後に、既存の団地はすべて分譲を完了
- 工業団地の保全や土地を探す企業と未利用地のマッチング
- 市街化調整区域の指定路線沿道に限り工場等の立地を一部許容
- 操業環境の保全 など

#### 【今後の動き】

- ✓ 建物の老朽化と未利用地の減少の継続が予想
- ✓ 建替え用地の不足への対応が必要
- ✓ 平成22年以降増加傾向にある製造品出荷額等の状況から、今後の工場等の新增設を支える取組が必要
- ✓ 物流施設等の効率化・高度化などに伴う施設整備への対応
- ✓ GX関連企業の集積とそれらの動きへの対応
- ✓ 工場等の新增設を支える取組などにあたっては、交通環境も配慮することが重要

### 今後の重要なポイント

- 工業系の土地利用の維持・向上
- 工業系用地不足への対応
- 工場や物流の操業環境の変化への対応
- GX関連産業等の新たな産業の進出など、社会情勢の変化に応じた機動的な対応

### 検討部会のご意見

- 昨今はものづくりよりネット・仮想が中心となり、工場は無人化・機械化している。技術革新等を踏まえた視点が必要ではないか
- 工業地において老朽建物や小規模な未利用地が増えることで空き地の荒廃などの管理上の懸念があるのであれば、今後の方針として、老朽建物・未利用地の管理やコントロールにつながるような観点を加えてはどうか。

### 市民の主なご意見

- 工業地に関するご意見(働く場所としての工業地が大事、工業(製造)を盛り上げることが重要、環境保全やエネルギー使用量への配慮等も同時に考える必要がある、まちから遠くない工業地があってもいい等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～工業地・流通業務地～

### 将来像(案)

#### 札幌の産業を支える 工業地・流通業務地

- 工業地・流通業務地の業態の変化等を踏まえながら、操業環境の維持・保全が図られています。
- 札幌の発展を支える工業系用地が確保され、持続的な企業立地及び集積と生産基盤が形成されています。
- 札幌の発展を後押しする産業振興やビジネスの創出を支えています。

### 将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)

#### ○ 工業系の土地利用の維持・向上

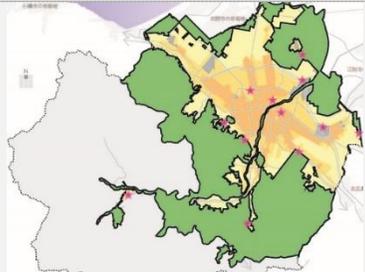
- ・工業系土地利用の維持・向上に向けた土地利用計画制度の運用の継続・拡大
- ・大谷地流通業務団地の機能の高度化に向けた検討

#### ○ 工業系用地の確保

- ・市街化区域内で住工の用途が混在している地区の動向の把握及び段階的な土地利用転換の誘導の検討
- ・市街化調整区域を含めた工業系用地確保に向けた土地利用の検討  
(流通業務施設立地指定路線の更なる活用、IC周辺や幹線道路沿道等における面的活用など)
- ・道内・国内の状況の変化に機動的に対応した産業立地施策の推進

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～市街地の外(市街化調整区域)～

### ■「2次マス」の記載内容



#### 市街地の外の 自然環境の保全と活用

#### 【基本方針】

- 良好な自然環境や優良な農地を保全するとともに、新たな市街地の形成は原則行わない
- 市街地の外ならではの土地利用に対応した土地利用計画制度の運用を検討
- 地域特性を踏まえて景観にも配慮した限定的な土地利用の許容について検討

### これまでの取組と現状・今後の動き

#### 【これまでの取組・現状】

- 「市街化調整区域の保全と活用の方針」により、自然環境の保全とその特質を生かした適切な活用の方向性を明確化
- 農業や産業の振興、高次機能交流拠点の機能や魅力向上の観点から、限定的に土地利用を許容する制度運用

#### 【今後の動き】

- ✓ 農地や農家の減少などに対し、食料安全保障強化に向け、農地の総量確保のための措置の強化など、農地の保全がより求められる
- ✓ コンパクトなまちづくりを進める上で、新たな居住を認める地区計画制度の運用について見直しが必要
- ✓ 産業の発展に対し、市街化区域内の未利用地が不足しており、市街化調整区域の活用を含めた工業系用地確保の対応が必要
- ✓ 高次機能交流拠点について、新たに位置づけられたものを含め、各拠点の特性を踏まえつつ、機能や魅力の向上に資する土地利用の許容について検討が必要

### 今後の重要なポイント

- 自然環境・農地の保全
- 都市の魅力や活力を高める土地利用への対応
- 市街化調整区域内の居住に係る土地利用計画制度の在り方

### 検討部会のご意見

- 市街化調整区域の住宅団地で人口が増加することは、全市的に居住誘導を凶っていく中でブレーキをかけることにもなるとも考えられる。今後20年、30年を見据えた市街化調整区域の居住の在り方や方針、基準等を具体化していく必要があるのではないか
- 工業系の用地の需要に市街化調整区域で対応する可能性があるならば、これまで例外的に開発を認めてきた市街化調整区域の方針と整合をとる必要がある。

### 市民のご意見

- 自然に関するご意見(自然豊かな環境を維持、観光への利用、太陽光発電設備の建設への懸念等)
- 市街化調整区域の有効活用に関するご意見(モエレ沼公園周辺の土地は有効活用ができるのではないかと、まとまった農地をもっと増やすべき、空いている農地を公共性のある市民農園として活用する等)
- 市街化調整区域の開発に関するご意見(コンパクトシティのために宅地開発の抑制が必要、周辺市町村に人が行っているので広げてもいいのでは等)

## 市街地区分ごとの取組の方向性 ～市街地の外(市街化調整区域)～

### 将来像(案)

#### 保全と活用で多様な魅力を 生む市街化調整区域

- 土地利用に関わる各種制度の運用により、自然環境や農地が適切に保全されています。
- みどりの保全や良好な景観形成に配慮しつつ、市街地の外ならではの特質を生かし、農業振興や産業などに活用されています。
- 市街地の外の高次機能交流拠点では、拠点ごとの特性に応じた土地利用が促進され、拠点としての機能や魅力の向上が図られています。

### 将来像の実現に向けた強化する取組の方向性(案)

#### ○ 自然環境・農地の保全

- ・豊かな自然環境の保全のための各種制度の運用
- ・優良な農地の維持・保全

#### ○ 市街地の外ならではの特色を生かした都市活力を向上させる土地利用の検討

- ・流通業務施設立地指定路線における許可の運用改善
- ・幹線道路沿道等での地区計画等による産業活用
- ・人口減少やコンパクトな都市づくりを踏まえた居住に係る地区計画制度の運用

#### ○ 市街化調整区域の高次機能交流拠点の高度化

- ・拠点の特性に応じた土地利用計画制度の運用
- ・周辺の地域交流拠点や公共空間などとの連携による魅力の向上
- ・アクセス性の向上、みどりの保全・創出や良好な景観形成

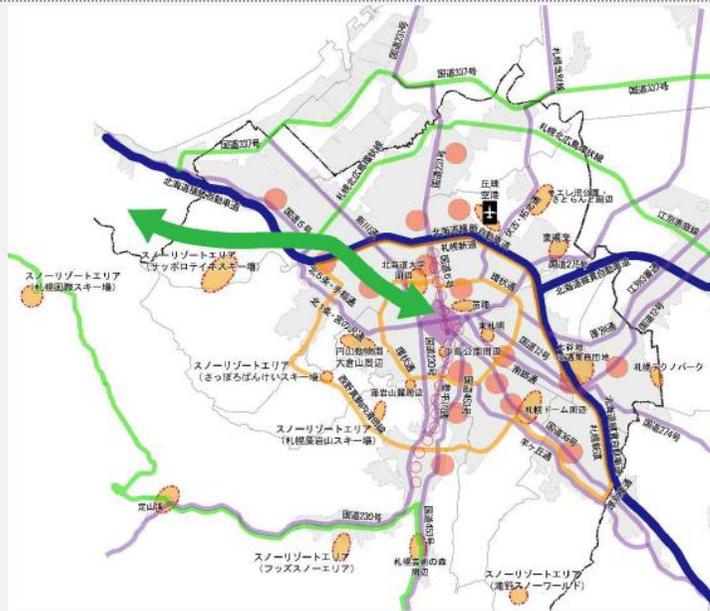
- 1 計画の見直しについて
- 2 検討部会の議論の経過
- 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲  
(中間まとめ)
- 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)
- 5 部門別の取組の方向性イメージ**
- 6 まとめ

## 部門別の取組の方向性 ～交通～

### 【骨格的な道路ネットワーク】



<資料> 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(戦略編)



	これまでの取組	今後の動き	今後の都市づくりにおける重要なポイント
①公共交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バス維持補助金、路線バスの運行効率化、代替交通の導入等を実施</li> <li>令和6年11月に「札幌市地域公共交通計画」を策定し、面的なネットワーク維持に向けて、フィーダー化の検討の必要性や、交通結節点・バスターミナルの機能維持の重要性を明記</li> <li>バリアフリー基本構想2022に基づく旅客施設・車両等のバリアフリー化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下鉄、JR、路面電車、バス等の役割分担による面的な公共交通ネットワークの維持</li> <li>地下鉄駅前やJR駅前において交通機能の再編や乗継機能の向上、バリアフリー化など利便性向上や機能改善を実施</li> <li>新たな公共交通システムの本格運行に向けた社会実験など、新技術の活用検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な公共交通ネットワークの構築</li> <li>将来の交通需要への対応</li> <li>交通結節機能の強化</li> <li>公共交通の利用環境の向上</li> <li>駅や車両のバリアフリー化</li> </ul>

# 5 部門別の取組の方向性イメージ

## 部門別の取組の方向性 ～交通～

	これまでの取組	今後の動き	今後の都市づくりにおける重要なポイント
② 道路ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>北部・東部方面では屯田・茨戸通や札幌新道、南部方面においては盤渓北の沢トンネルや環状通等の整備による<b>骨格道路網の強化</b>が進捗</li> <li>幹線道路拡幅や交差点改良等による自動車交通の円滑化</li> <li>緊急輸送道路等における無電柱化</li> <li>橋梁の耐震補強や長寿命化対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創成川通や五輪通などの整備による<b>骨格道路網の機能強化</b></li> <li>高次機能交流拠点のアクセス性向上</li> <li>幹線道路の整備や道路空間の再配分による交通円滑化の推進等</li> <li>緊急輸送道路等における無電柱化、橋梁の耐震補強や長寿命化対策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射・環状等の骨格道路網の機能強化</li> <li>交通円滑化対策や道路ネットワークの維持・充実</li> <li>災害に強い強靱な道路ネットワーク</li> </ul>
③ 広域的な交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>丘珠空港が進むべき方向性を示した<b>丘珠空港の将来像</b>の策定</li> <li>北海道新幹線札幌延伸に向けた市内工事の着手</li> <li>札幌駅交流拠点の強化にあわせた札幌駅バスターミナル再整備の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>丘珠空港の滑走路延伸</b>によるリージョナルジェット機の通年運航化、新千歳空港をはじめとした道内他空港との連携強化</li> <li>北海道新幹線札幌延伸に向けた建設事業の推進</li> <li><b>札幌駅バスターミナル再整備による多様な交通手段の確保</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道内都市や観光地を始めとした国内外の地域とのつながり</li> <li>丘珠空港の機能強化、アクセス性の向上</li> <li>広域交通ネットワークの充実</li> </ul>
④ 歩行者や自転車等の交通環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー基本構想2022に基づく<b>道路や地下通路等のバリアフリー化の推進</b></li> <li>都心の開発誘導方針に基づき、民間開発における地下通路への接続誘導など、官民連携による地下歩行ネットワークの拡充を促進</li> <li>都心部等における自転車通行空間の整備、地下鉄・JR駅周辺の公共駐輪場の整備</li> <li>駐車施設の附置義務条例見直し</li> <li>路上等への荷さばきに必要な空間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四季を通じた回遊性向上に向け、<b>地上・地下の歩行者ネットワークの充実や道路空間再配分による歩行環境の向上などの取組</b>の推進</li> <li>駐輪場整備の推進や自転車通行空間の整備等の<b>自転車利用環境の向上</b></li> <li>都心等の回遊性向上に資する<b>シェアサイクルの利便性向上</b></li> <li><b>既存駐車施設のさらなる活用促進策や公共交通利用促進策</b>を検討</li> <li>官民連携による<b>荷さばき空間の確保や効率化</b>に向けた取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居心地が良く歩きたくなる空間の形成</li> <li>地上・地下の重層的な歩行者ネットワーク形成</li> <li>自転車利用環境の向上</li> <li>シェアサイクルの利用促進</li> <li>既存駐車施設の有効活用促進</li> </ul>

## 部門別の取組の方向性 ～交通～

### 基本方針(案)

### 持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立しているまち

- 公共交通の利用環境の向上等により、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが構築されています。
- 骨格道路網の強化により、自然災害等の発生時にも強靱で、階層性のある道路ネットワークが形成され、生活空間の安全性が確保されています。
- 広域交通拠点としての機能強化、アクセス性の向上が進み、道内外とつながる多様な広域交通ネットワークの構築・充実が図られています。
- 歩行者と自転車に安全・快適な、居心地が良く歩きたくなる空間が形成されています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### ①公共交通ネットワーク

##### ○持続可能な公共交通ネットワークの構築

- ・面的な公共交通ネットワークの維持
- ・新たな公共交通システムの導入検討
- ・新技術等の活用の検討（MaaS、水素燃料電池車両 など）
- ・バスターミナル機能の維持

##### ○公共交通の質的充実

- ・地下鉄等の公共交通の利用環境の向上等による利用促進
- ・駅前広場整備等による交通結節機能の強化
- ・駅や車両のバリアフリー化

#### ②道路ネットワーク

##### ○骨格道路網の強化

- ・放射・環状等の骨格道路網の機能強化  
※北部方面において札幌北広島環状線や都心アクセス強化軸の一部である創成川通の整備を推進中。南部方面の道路ネットワークの機能強化は中長期的な課題。

##### ○幹線道路の整備・機能強化

- ・交通状況やニーズに応じた交通円滑化対策や道路ネットワークの維持・充実
- ・緊急輸送道路等の無電柱化や橋梁の耐震補強・長寿命化などの推進による、災害に強い道路ネットワークの確保

##### ○道路空間の有効活用

- ・道路空間の再配分など、道路空間をより有効に活用することにより、効率的・効果的な自動車交通の円滑化を推進

## 部門別の取組の方向性 ～交通～

### 基本方針(案)

**持続可能でシームレスな  
交通ネットワークが確立し  
ているまち**

- 公共交通の利用環境の向上等により、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが構築されています。
- 骨格道路網の強化により、自然災害等の発生時にも強靱で、階層性のある道路ネットワークが形成され、生活空間の安全性が確保されています。
- 広域交通拠点としての機能強化、アクセス性の向上が進み、道内外とつながる多様な広域交通ネットワークの構築・充実が図られています。
- 歩行者と自転車に安全・快適な、居心地が良く歩きたくなる空間が形成されています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### ③広域的な交通ネットワーク

##### ○航空ネットワークの充実・強化

- ・新千歳空港を始めとした道内他空港との連携の強化(道内都市への2次交通としての機能強化)
- ・空港へのアクセス性の向上

##### ○北海道新幹線札幌延伸の推進と、札幌延伸を見据えた広域交通ネットワークの強化

- ・北海道新幹線の建設事業の円滑な推進
- ・札幌駅バスターミナルの再整備などによる円滑な広域交通ネットワークの構築
- ・創成川通の機能強化による都心と高速道路間へのアクセス強化

#### ④歩行者や自転車等の交通環境

##### ○歩行者の回遊性向上

- ・道路空間の再配分などによる居心地が良く歩きたくなる空間の形成
- ・地上・地下の重層的な歩行者ネットワーク形成

##### ○駐車施設の有効活用

- ・既存駐車施設のさらなる活用促進策や公共交通利用促進策を検討
- ・官民連携による荷さばき空間の確保や効率化に向けた取組の推進

##### ○安全・安心な交通環境の形成

- ・通学路等における安全・安心な交通環境の形成
- ・地下鉄・JR駅周辺における歩道バリアフリー化
- ・都心を目的地としない通過交通の適切な誘導

##### ○安全で快適な自転車利用環境の向上

- ・駐輪場整備の推進や自転車の通行空間整備等による利用環境の向上
- ・シェアサイクルの利便性向上

## 部門別の取組の方向性 ～エネルギー～

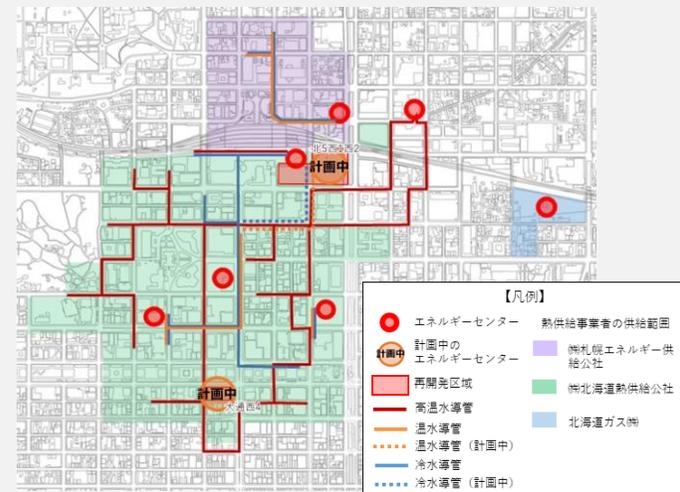
### 【気候変動対策行動計画における2050年のあるべき姿のイメージ】



<資料> 札幌市気候変動対策行動計画

図 5-2 2050年のあるべき姿のイメージ

### 【札幌都心の地域熱供給整備状況】



これまでの取組	今後の動き	今後の都市づくりにおける重要なポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年、札幌市内から排出される温室効果ガスを2050年には実質ゼロにする「<b>ゼロカーボンシティ</b>」を目指すことを宣言</li> <li>令和4年に脱炭素のモデル地域である「<b>脱炭素先行地域</b>」に指定</li> <li>「札幌市気候変動対策行動計画(令和3年)」に基づき、温室効果ガスの排出を抑制する「<b>緩和策</b>」と気候変動の影響への「<b>適応策</b>」を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市のリニューアル時期の機会をとらえた建物や社会基盤の建替え・更新時の脱炭素化及び強靱化を推進</li> <li>全道域でのGX産業の振興と札幌市域での<b>金融機能の強化・集積</b>を図り、日本の<b>再生可能エネルギー</b>の供給基地、アジア・世界の金融センターの実現を目指す取組を推進</li> <li>使用時にCO2を出さず、かつ停電時でも電気や熱を供給することができる<b>水素エネルギー</b>を活用した、「<b>災害に強く環境にやさしいモデル街区</b>」の整備を推進</li> <li>次世代自動車の普及の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>徹底した省エネルギー対策</b></li> <li><b>再生可能エネルギーの活用</b></li> <li><b>非常時の自立機能の強化</b></li> <li><b>エネルギー利用の効率化</b></li> <li><b>移動の脱炭素化</b></li> <li><b>GXの推進</b></li> </ul>

## 部門別の取組の方向性 ～エネルギー～

### 基本方針(案)

#### 省エネ化の徹底や再エネの導入、公共交通を基軸としたエネルギー効率の高い持続可能なまち

- 更なる省エネルギー化に加え、再生可能エネルギーの導入拡大や水素など新たなクリーンエネルギー等の活用などのGXの取組が推進されています。
- エネルギーネットワークの整備、自立分散電源の設置などにより、高い環境性能と強靭性を兼ね備えた都心が形成されています。
- 移動の脱炭素化、廃棄物や下水などから生じるエネルギーの有効活用など、他分野と連携した取組みが推進されています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### ○徹底した省エネルギー対策

- ・土地利用の高度化や公共交通を軸とした交通体系の実現などエネルギー効率の良い都市づくりの推進
- ・建築物の省エネ化(ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス))の推進

#### ○再生可能エネルギーの導入

- ・地域の状況に応じた再生可能エネルギー導入の拡大
- ・広域的な再生可能エネルギーの活用に向けた検討
- ・再生可能エネルギーなど地域資源に由来する水素エネルギーの活用
- ・オフサイトPPAによる再エネ電力の都心への導入

#### ○エネルギーの面的利用の促進

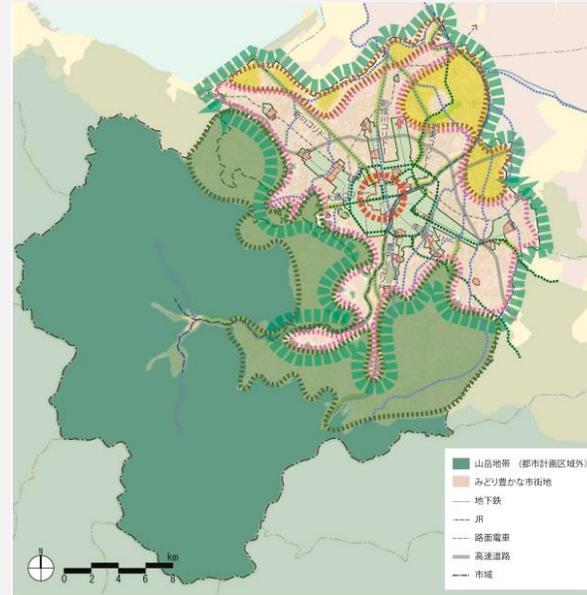
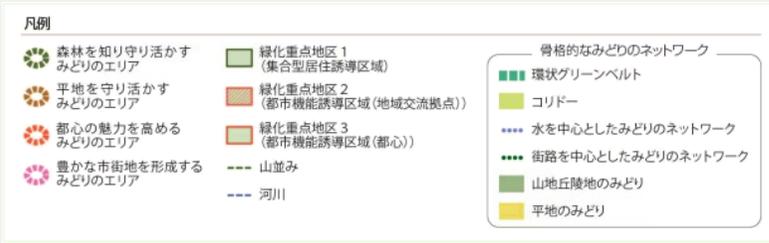
- ・都心や地域交流拠点における地域熱供給の拡充やICT活用によるエネルギーネットワークの効率化

#### ○他分野と連携した脱炭素化の推進

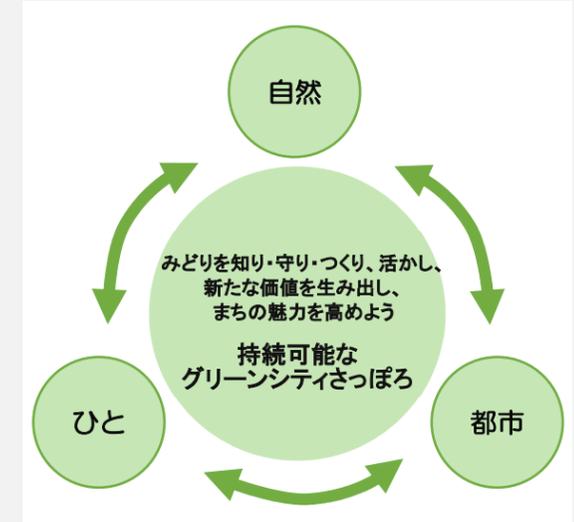
- ・廃棄物から生じるエネルギーや下水熱などの有効活用
- ・商用車や、新たな公共交通システムにおける水素車両等の導入検討

## 部門別の取組の方向性 ～みどり～

### 【骨格的なみどりのネットワーク】



### 【第4次みどりの基本計画の将来像】



<資料> 第4次札幌しみどりの基本計画

### これまでの取組

#### ① 自然・農地

- 公有化した森林の間伐等の実施により、森林の保全を推進
- 新規就農者支援や市民農園の整備促進等による農地の保全と活用
- 市街地内の農地活用に向けたアンケート調査などによる課題の把握、支援制度の検討を実施

### 今後の動き

- CO2吸収や水源かん養など森林の多面的な機能を発揮するため、**手入れ不足の人工林の整備や道産木材利用、森林の啓発**などを推進
- 森林環境譲与税を活用した整備や、間伐遅れの私有林について、森林経営管理制度を活用した整備を実施
- 多様な農業の担い手を確保するため、**6次産業化による経営の多角化、企業等の参入、スマート農業、環境保全型農業**などの推進
- **市街地にある農地の活用**(市民農園や体験農園など)

### 今後の都市づくりにおける重要なポイント

人と自然の共生、生物多様性の維持

みどりのネットワーク

農地の保全と活用

## 部門別の取組の方向性 ～みどり～

	これまでの取組	今後の動き	今後の都市づくりにおける重要なポイント
② 都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心の魅力やブランド力の向上に寄与するみどり空間を創出していくため、令和5年に「札幌市都心のみどりづくり方針」を策定</li> <li>民間資本の活用等の検討(Park-PFIの導入)</li> <li>地域のニーズに応じた身近な公園の再整備</li> <li>屯田西公園など雨水貯留機能等を備えた災害に強いまちづくりに資する公園の整備</li> <li>農試公園など大規模公園の再整備</li> <li>公園のバリアフリー化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>民有地緑化の推進</b>(緑保全創出地域制度の見直しに向けた効果検証)</li> <li><b>民間資本活用の推進</b>(Park-PFIなど)</li> <li><b>ウォーカブルの推進</b>(魅力あふれる公園づくりや官民連携による都心のみどりづくり)</li> <li><b>自然環境が有する多様な機能</b>(グリーンインフラ)の活用</li> <li>ニーズに応じた<b>安全・安心な公園の再整備</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市の魅力の向上</li> <li>資源の有効活用</li> <li>官民連携によるみどりの活用・創出</li> <li>みどりが有する多様な機能の活用</li> <li>安全・安心な公園の再整備</li> <li>みどりを活用した良好な景観形成</li> </ul>
③ ひと	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を知り、守り、つくり、活かす活動の推進</li> <li>さとらんどを活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心でのおもてなし緑化活動の推進</li> <li>さとらんど魅力アップによる都市農業の普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの醸成</li> <li>みどりとのふれあい</li> <li>官民連携による都市農業の推進</li> </ul>

## 部門別の取組の方向性 ～みどり～

### 基本方針(案)

**みどりを知り・守り・つくり・活かすことで、新たな価値を生み出していくまち**

- 森林、草地、農地といったみどりのネットワークが保全され、多様な生物の生息・生育空間が確保されており、人と自然が共生しています。
- 美しい景観や、憩いやにぎわいの交流拠点となるみどりのオープンスペースなどにより、五感を通して感じられるみどりが保全・創出され、都市の魅力を高めています。
- 公園や自然歩道など多様なみどりを介して多くの人が自然にふれあい、自然とふれあう活動を通じて、互いに支え合える優しい地域コミュニティを育てています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### ①自然・農地

##### ○良好な自然環境の維持・創出

- ・市街地を取り囲む森林の保全と適正な維持管理・整備の推進
- ・地域本来の生態系の維持
- ・市街地の農地も含めた農業振興に資する取組及び土地利用の柔軟な対応
- ・環境に配慮した農業の推進(環境保全型農業など)

##### ○市街地にある農地の有効活用と保全

- ・市民農園、体験農園の推進

#### ②都市

##### ○みどりの更なる魅力の向上

- ・公園や水辺空間等のみどりの創出・保全
- ・公園の再整備等による魅力向上、居心地が良く歩きたくなる空間の形成
- ・公園のバリアフリー化等による誰もが安心して使える公園の整備

##### ○みどりが有する多様な機能や魅力の活用

- ・公園内への民間活力の導入による公園の更なる魅力アップの取組(Park-PFIなど)
- ・官民協働によるグリーンインフラ(雨水浸透緑化)の取組
- ・緑地の創出等によるみどり豊かな都心の形成や、それによる良好な景観の形成

#### ③ひと

##### みどりとのふれあい・協働

- ・市民や企業、活動団体などとの協働
- ・身近なみどりにふれあう機会を創出

## 札幌市内の農地に関する状況

### ●農地の保全

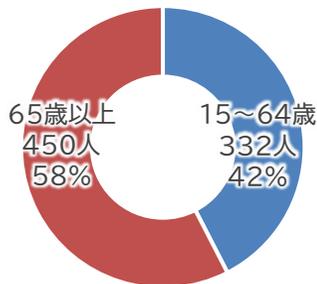
第4回部会資料より抜粋

- ・農家数、経営耕地面積は減少しており、平成12年～令和2年で半減
- ・令和2年時点の農業従事者のうち、65歳以上が6割近くを占めており、今後、更なる農地の減少や遊休農地の増加などが懸念

農家数と経営耕地面積の推移



農業従事者数(R2)



<資料>農林業センサス

- 経営耕地面積の減少は、荒廃農地(耕作放棄)と非農業用途等への転用が主な要因。
- 高齢化等に伴う担い手不足により、今後、耕地面積はさらに減少していくことが予想される。

#### 農家

…経営耕地面積が10a以上の農業を営む、又は、農産物販売金額が年間15万円以上ある世帯

#### 経営耕地面積

…市内全域の農業経営体が経営している耕地をいい、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計

#### 農業経営体

…農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、経営耕地面積が30a以上など、生産又は作業に係る面積・頭羽数等が一定以上の事業を行う者

#### 農業従事者

…15歳以上の世帯員で年間1日以上自営農業に従事した者

### (補足)札幌市の農業振興地域等と区域区分との関係

#### 市街化調整区域(32,550ha)

##### 農業振興地域(15,627ha) ※1

##### 農用地区域(940ha) ※2

農地(920ha)

※2 農地以外に農道、用排水路、農業用施設用地などを含む

##### 農振白地

農地(1,364ha)

※1 農地以外に農道、用排水路、農業用施設用地、農家住宅などを含む

農地(14ha)

#### 市街化区域(25,034ha)

農地(192ha)

生産緑地(0ha)

#### 農業振興地域

…農業の振興を促進することを目的として、農振法により都道府県が指定。農用地区域と農振白地に分かれる。

#### 農用地区域

…農業振興地域内で特に農業に特化して利用されるべき区域として、農振法に基づき市町村が定める。

#### 農振白地

…農業振興地域内で農用地区域に指定されていない区域。住宅などの建築が可能。

#### 農地

…農地法に基づき、耕作の目的で利用される土地

※農地面積(ha)は非公表のため参考値

## 部門別の取組の方向性 ～各種都市施設～

	これまでの取組	今後の動き	各種都市施設の観点から見た 今後の都市づくりにおける重要なポイント
(1) 河川	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川改修や流域貯留施設の整備</li> <li>洪水ハザードマップ作成・公表</li> <li>サクラマス(札幌市レッドリスト掲載)を対象とした魚道整備事業や水生生物が生息しやすい川づくり</li> <li>老朽化した河川施設の計画的修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動の影響による大雨の増加等を踏まえ、流域内のあらゆる関係者が連携したハード・ソフトを組み合わせた対策を実施</li> <li>魚道整備など、多自然川づくりの継続的な実施</li> <li>PDCAサイクルによる計画的・効率的な補修や更新</li> </ul>	<p>良好な河川環境の保全・創出</p> <p>計画的かつ効率的な施設の更新・改修</p> <p>ハード・ソフト両面での対策による、災害に強い都市の形成</p>
(2) 上水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源の確保や保全、水道水質の監視や検査の実施</li> <li>各施設の改修・更新を実施</li> <li>各施設の耐震化や多重化の実施、応急給水施設の整備</li> <li>水道施設への水力発電の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質監視・管理の継続と充実</li> <li>経年劣化の進む基幹施設の大規模な改修・更新</li> <li>ハード・ソフト両面からの災害対策の継続及び上下水道一体での災害対策の検討</li> <li>更なる省エネ・再エネの推進</li> </ul>	<p>水源の保全と水質管理の充実</p> <p>計画的かつ効率的な施設の更新・改修</p> <p>ハード・ソフト両面での対策による、災害に強い都市の形成</p> <p>脱炭素社会の実現に向けた、環境負荷の低減とエネルギーの有効利用</p>

## 部門別の取組の方向性 ～各種都市施設～

	これまでの取組	今後の動き	各種都市施設の観点から見た今後の都市づくりにおける重要なポイント
(3) 下水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検・調査やその結果を踏まえた修繕を実施</li> <li>修繕による延命化で計画的な改築を実施</li> <li>雨水拡充管(増補管)の整備、内水ハザードマップの公表による浸水対策や、下水道管・処理施設の耐震化を実施</li> <li>設備の改築に合わせた省エネ設備の導入、下水熱を活用した雪処理施設の整備</li> <li>水再生プラザにおける運転管理の工夫や処理方法の高度化などにより良好な水環境の維持へ貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き点検・調査、修繕を行うなど、ライフサイクルコストの縮減を実現</li> <li>将来の人口減少に応じた施設規模の適正化を踏まえた再構築の実施</li> <li>ハード・ソフト両面からの災害対策の継続及び上下水道一体での災害対策の検討</li> <li>省エネや下水道資源・エネルギーの活用による脱炭素化の推進</li> <li>処理水質とエネルギー消費量のバランスが最適となる運転管理手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共用水域の水質保全</li> <li>計画的かつ効率的な施設の更新・改修</li> <li>ハード・ソフト両面での対策による、災害に強い都市の形成</li> <li>脱炭素社会の実現に向けた、環境負荷の低減とエネルギーの有効利用</li> </ul>
(4) 廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>リデュースの取組に関する普及啓発</li> <li>リサイクルプラザの運営や民間企業等との連携によるリユースの推進</li> <li>廃棄物処理施設の延命化への取組や計画的な施設更新を実施</li> <li>ブラックアウトでも自立運転可能とする対策や、避難所としての活用など施設強靱化の推進</li> <li>高効率なエネルギー回収による発電量の大幅な増量や地下鉄3路線での発電した電力の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3Rのうち環境負荷の小さい2R(リデュース、リユース)を優先した取組の推進</li> <li>プラスチック資源循環促進法の施行(令和4年)に伴うプラスチックごみのリサイクルの推進</li> <li>廃棄物処理施設の延命化、老朽化した施設の適切な更新・改良等を推進</li> <li>廃棄物処理の広域化</li> <li>廃棄物処理の温室効果ガス排出削減対策の推進</li> <li>地域の防災拠点やエネルギーセンターとしての機能など多面的価値の創出の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2Rを優先した3Rの推進</li> <li>廃棄物処理の広域化</li> <li>計画的かつ効率的な施設の更新・改修</li> <li>ハード・ソフト両面での対策による、災害に強い都市の形成</li> <li>脱炭素社会の実現に向けた、環境負荷の低減とエネルギーの有効利用</li> </ul>

## 部門別の取組の方向性 ～各種都市施設～

各種都市施設の観点から見た 今後の都市づくりにおける重要なポイント	
共通	計画的かつ効率的な施設の更新・改修
	ハード・ソフト両面での対策による、 災害に強い都市の形成
(1) 河川	良好な河川環境の保全・創出
(2) 上水道	水源の保全と水質管理の充実
	脱炭素社会の実現に向けた、 環境負荷の低減とエネルギーの有効利用
(3) 下水道	公共用水域の水質保全
	脱炭素社会の実現に向けた、 環境負荷の低減とエネルギーの有効利用
(4) 廃棄物	2Rを優先した3Rの推進
	廃棄物処理の広域化
	脱炭素社会の実現に向けた、 環境負荷の低減とエネルギーの有効利用

## 「各種都市施設」の基本方針イメージ

### 都市に必要なインフラを適切に維持・更新し、 最大限活用するまち

- 必要な機能や人口動態なども踏まえながら、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。
- ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。
- 気候変動により激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、ハード・ソフト両面から対策を実施し、災害に強い都市が形成されています。
- 適切な維持・保全や、各種都市施設で発生する未利用エネルギーの有効利用により、良好な自然環境や脱炭素社会の形成に寄与しています。

## 部門別の取組の方向性 ～各種都市施設～

### 基本方針(案)

#### 都市に必要なインフラを適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

- 必要な機能や人口動態なども踏まえながら、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。
- ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。
- 気候変動により激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、ハード・ソフト両面から対策を実施し、災害に強い都市が形成されています。
- 適切な維持・保全や、各種都市施設で発生する未利用エネルギーの有効利用により、良好な自然環境や脱炭素社会の形成に寄与しています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### (1)河川

##### ○総合的な治水対策の推進

- ・気候変動の影響を踏まえ、河川管理者が主体となって行う河川の改修や流域貯留施設の整備に加え、流域内のあらゆる関係者が協働してハード・ソフト対策を行う流域治水の取組を推進

##### ○河川環境整備の推進

- ・良好な河川環境の保全・創出に向けた多自然川づくりの推進

##### ○効率的な維持管理の推進

- ・老朽化した河川施設の計画的修繕

#### (2)上水道

##### ○水源の保全と水質管理の充実

- ・水源の分散配置や適切な維持管理の継続
- ・水質監視・検査の継続、水質管理の充実

##### ○効率的な水道施設の整備・更新と管理

- ・適切な維持管理と、計画的かつ効率的な整備と更新

##### ○災害に強い水道の整備

- ・各施設の耐震化や多重化の実施
- ・応急給水施設の整備

##### ○環境負荷低減の推進

- ・水道施設への水力発電の導入

## 部門別の取組の方向性 ～各種都市施設～

### 基本方針(案)

#### 都市に必要なインフラを適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

- 必要な機能や人口動態なども踏まえながら、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が行われ、誰もが快適に利活用しています。
- ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化などが行われています。
- 気候変動により激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、ハード・ソフト両面から対策を実施し、災害に強い都市が形成されています。
- 適切な維持・保全や、各種都市施設で発生する未利用エネルギーの有効利用により、良好な自然環境や脱炭素社会の形成に寄与しています。

### 強化する取組の方向性(案)

#### (3)下水道

- |                     |  |
|---------------------|--|
| ○下水道施設の改築・再構築       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・管路施設・処理施設(機械・電気設備)の計画的な改築</li> <li>・処理施設(土木・建築構造物)の改築・再構築に向けた検討</li> </ul> |
| ○下水道施設の維持管理         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・管路施設、処理施設の計画的な維持管理</li> </ul>  |
| ○災害に強い下水道の構築        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な浸水対策の推進</li> <li>・総合的な地震対策の推進</li> </ul>                               |
| ○脱炭素社会・循環型社会の形成への寄与 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道における省エネ・創エネ・再エネの推進</li> <li>・下水道資源の更なる有効利用</li> </ul>                   |
| ○公共用水域の水質保全         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最適な運転管理手法の検討</li> </ul>  |

#### (4)廃棄物処理施設

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| ○廃棄物の発生・排出抑制とリサイクルの推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの減量等によるリデュース、官民連携によるリユースの促進</li> <li>・集団資源回収や民間回収拠点による資源物の回収促進</li> <li>・温室効果ガス排出量の削減に向けた、プラスチックごみのリサイクルの推進</li> </ul> |
| ○廃棄物処理施設の計画的な更新・整備    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な処理体制の確保、広域処理の推進</li> <li>・災害対策の強化</li> </ul>   |
| ○産業廃棄物の適正な処理          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間設置施設等を活用した産業廃棄物の適正処理の推進</li> </ul>  |
| ○廃棄物のエネルギーとしての有効活用    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率なエネルギー回収</li> <li>・脱炭素社会の実現に寄与するエネルギー利用</li> </ul>   |

## 部門別の取組の方向性 ~景観~

### 【景観計画による良好な景観形成の誘導】

景観計画区域(市内全域)

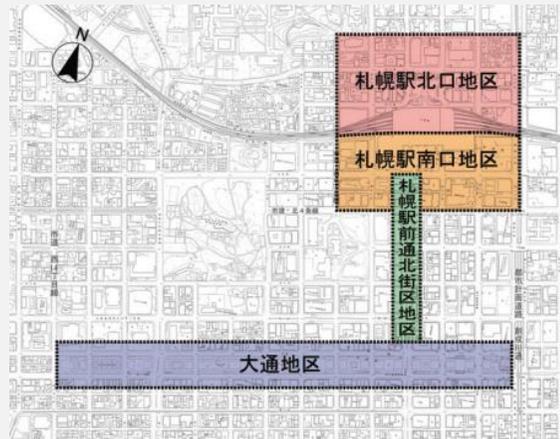


配置や意匠など景観資源に配慮



色彩等を周辺の街並みと調和

景観計画重点区域(4区域)



周辺との連続性に配慮した低層部



札幌駅前通の街並み

<資料> 札幌市景観計画、パンフレット、札幌駅前通北街区地区街並みづくりの手引き

### これまでの取組

- ・「札幌市景観計画」に基づく届出・協議にて良好な景観を誘導
- ・景観形成上重要な建築物等に対して事業者と専門家が意見交換を行う制度を運用
- ・指定・登録制度による景観資源の保全・活用を進めている
- ・ロープウェイ入口電停周辺地区をはじめとする地域ごとの景観まちづくりを推進
- ・子どもへの景観教育や情報発信など市民に対する景観形成の普及啓発の推進

### 今後の動き

- ・大規模な都市のリニューアル時期の只中にあることを踏まえて、「札幌市景観計画」の改定を進めている(令和8年度中改定予定)。
- ・各種取組の検証と合わせて、都市の魅力向上に資することや札幌を特徴づける眺望、夜間景観、雪・冬季の景観等に関する取組を強化

### 今後の都市づくりにおける重要なポイント

札幌の地形・自然や、都市の成り立ちといった景観の土台となる特徴を大切に景観形成

街並みや活動・営みによる景観がより魅力的に変化を重ねていく景観形成

札幌らしい眺望の創出と配慮

夜間景観に対する高い評価の維持・強化

雪・冬季の景観の魅力向上

## 部門別の取組の方向性 ～景観～

### 基本方針(案)

#### 四季の変化を感じられる 札幌ならではの景観が 形成されたまち

- 札幌の地形・自然や都市の成り立ちといった景観の土台となる特徴を大切にした景観が形成されています。
- 街並みや活動・営みによる景観がより魅力的に変化を重ねています。
- 札幌らしさを特徴づける眺望、夜間景観、雪・冬季の景観の魅力が向上しています。

### 取組の方向性(案)

#### ○建築物等の誘導

- ・ 専門家を交えた協議制度(景観プレ・アドバイス)の実施
- ・ 景観形成の対象とする眺望の位置づけ
- ・ 大規模建築物等の誘導のためのゾーンを設定
- ・ 夜間景観に関するガイドラインの策定

#### ○公共施設等の取組

- ・ 景観上重要な公共施設の協議等の実施
- ・ 景観重要公共施設への指定を検討

#### ○景観資源の保全・活用

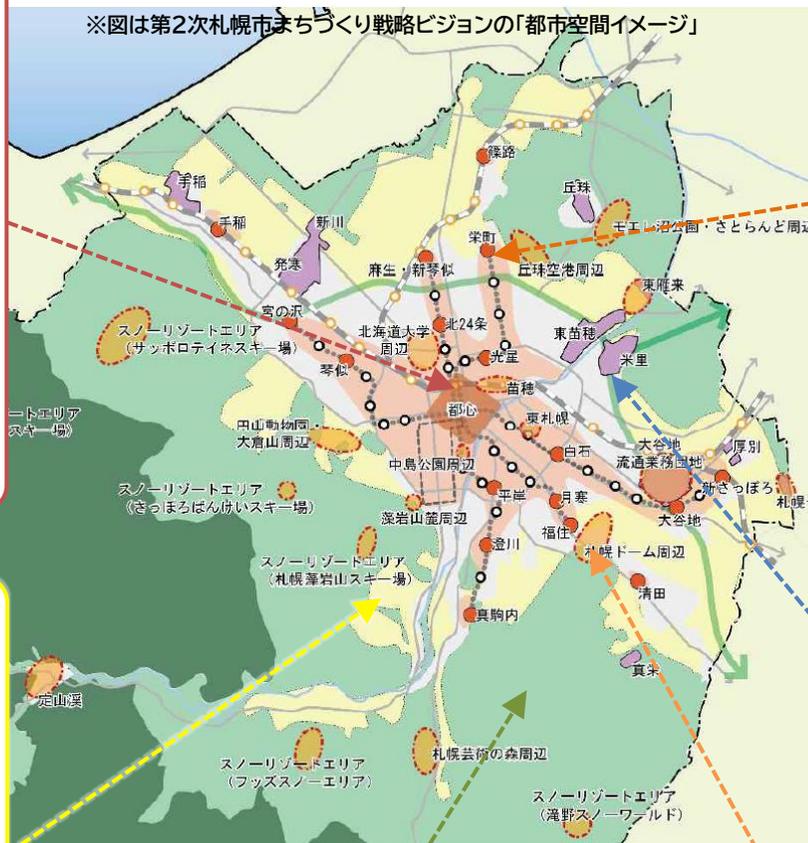
- ・ 眺望、夜間景観、雪・冬季の景観等に着目した指定・登録の推進と情報発信

#### ○地域ごとの景観まちづくりと主体的な活動の促進

- ・ 多様な分野との連携と関連制度等の適切な活用、景観まちづくり指針の運用

- 1 計画の見直しについて
- 2 検討部会の議論の経過
- 3 都市づくりの基本目標と市街地の範囲  
(中間まとめ)
- 4 市街地区分ごとの取組の方向性(中間まとめ)
- 5 部門別の取組の方向性イメージ
- 6 まとめ**

## 市街地区分ごとの強化する取組の方向性(案)



**◆『都心』**  
札幌・北海道の魅力と活力を先導・発信する都心

高次な都市機能の集積・交流機会の創出

先進的な脱炭素化の取組の推進

みどりが感じられ、居心地が良く歩きたくなる空間の形成

強靱な都心の形成

実効性を高める公民連携型のまちづくり推進

**■『住宅市街地』**  
居住機能の維持・向上と持続可能な住宅地の形成

高密度で質の高い都市空間の居の形成

立地適正化計画の推進

居住地としての魅力の向上

土地及び既存ストックの有効活用

居住環境の維持

**■『市街化調整区域』**  
保全と活用で多様な魅力を生む市街化調整区域

自然環境・農地の保全

都市活力を向上させる土地利用の限定的な活用

市街化調整区域の高次機能交流拠点の高度化

**●『地域交流拠点』**  
豊かな生活環境を支える地域交流拠点

土地利用計画制度を活用した都市機能の強化

交通結節機能の強化

ひとが集まり居心地が良く歩きたくなる空間の形成

拠点の脱炭素化

地域の特徴を捉えた多様な手法での都市づくりの推進

**■『工業地・流通業務地』**  
工業の集積による札幌の産業の発展

工業系の土地利用の維持・向上

工業系用地の確保

**●『高次機能交流拠点』**  
産業や観光など札幌の魅力と活力を高める高次機能交流拠点

都市機能の更なる高度化や集積に向けた土地利用計画制度の運用

周辺との連携による機能向上の推進

**『交通』**

持続可能な公共交通ネットワークの構築

主要幹線道路網の強化

**『エネルギー』**

徹底した省エネルギー対策

再生可能エネルギーの導入

**『みどり』**

良好な自然環境の維持・創出

みどりが有する多様な機能や魅力の活用

**『各種都市施設』**

計画的かつ効率的な施設の更新・改修

ハード・ソフト両面での災害に強い都市の形成

**『景観』**

眺望、夜間景観、雪・冬季の景観等の札幌を特徴づける良好な景観形成

地域ごとの景観まちづくりと主体的な活動の促進